

日本國土計畫論

石川英

D12.02
I
24160

66

贈呈

石川榮耀著

日本國土計畫論

東京八元社刊

名著100選圖書

56.6.15

登錄	昭和	年	月	日
番号	第	24160	号	
社団法人	土木学会			
附属	土木図書館			

自序

自分が National planning の名稱を初めて眼にしたのは一九二四年のアムステルダムの
國際住宅及都市計畫會議に於てである。

それは恐らく世界最初の Regional planning の討議であつたろう。

その會場で貰つた資料の中に美しいアーサー・ロミイの Regional planning の報告があ
り、その中に National planning と云ふ珍らしい文字が出て來た。

然し自分達は未だ「如何にして日本に田園都市を創設し得るや」の時代であつたので
それはそれなりに大して興味をもひく事なく終つた。

恐らく、それは他の専門家をも魅するに至つて居なかつたであらう。

世界をあげて未だ地方計畫さへもちあぐんで居たのである。

x

それが十數年の間に國土計畫の名を有ち、およそ、國家が起死回生せんとする時の唯
一策として公認せられ、むしろ、此れを採用し得るや否やによりその國家の未來を判定
せられる様なものにならうとは何人も想像して居なかつたであらう。いわんや、その會

場に於て戦敗國民として孤影然と一隅に身を置いて居た獨逸の學者達が、やがて數年に於て獨逸的國土計畫を創始し、會議の華々しき立役者であつた英佛チエコ等々を一括して城下の誓をなさしめ得様とは更に何人が想像し得たであらうか。

マジノ線を越へたものは實に此の國土計畫であつたのである。

x

今や我國も肇國以來の大業に當面してゐる。

我國の「明日」は國土計畫を挺として誕生せんとしてゐる。

x

而してその國土計畫は既に閣議決定を経てスタートした。

速かにして追まじき生ひ立ちを祈つて止まない。

x

ただ自分は考へる。

凡そ一國の事、考へ様によつては國土計畫ならざるはない。まして、都市、農村の計畫は國土計畫の細胞である。

此れに興味なく、此れの何たる事を解せず、いたずらに壯大なる「國土」の名に酔へ

る「大計畫」が論議せられ「それにて終る」ならばそれは誠にそのままに空中の樓閣である。

人間は最後に家に住み、都市農村を形成するものである。

その都市農村を無視するものは人間を放任するものである。

人間と縁なき國土計畫は——それはトラックではあらうともバスではあり得ない。

x

その意味で自分は自分達の職場を直に國土計畫の職場と考へてゐる。しかも、帝都はその機能の重要性に於て、大都市としての毒性に於て國土計畫の重要対象である。否考へ様によつては日本の國土計畫は最後の此の「東京」をいかに處理するかによりその効果を吟味されるものと云つて好い。

x

従つて自分達東京の計畫にたずさはるものは一日も速に國土計畫の策定されん事を待つものであるが、それと同時に國土計畫の技術的本質により自分達こそ、このまゝに國土計畫の最前線にあるものであり、後方陣地よりの指令の有無にかゝはらず、國土計畫的態度により總てを處理して行かなければならないと考へてゐる。

今日此の緊迫せる情況に於て、恐らく此の自負は許されていゝであらうと思ふ。
 (二十年の都市計畫史をもその自負に入れさして貰つて)

その自負によつて計畫する事既に十年に近い。その中自分達は「東京の國土計畫的處理」が結局關東全平野に關係し、つづいて東北乃至全國の問題であり、又それは工業、農業、防空の部門をこへて、生活一般に迄ひびくものである事を知つた。

東京の國土計畫的處理は、日本全土東亞全土の處理と一體の關係にある事を解し得た。勿論それこそ來る可き國土計畫の重要な指令の項目であらう。ただ、それを待つ時間に乏しい我々はそれについて、自からの力に於て考へつゝ進む必要がある。(その態度こそ責務である)。

此の書は實にその現物ノートであつて、高邁なる國土計畫理論ではない。ただ二十年の現物ノートである事は或は理論の秩序を得て居ないにしても——例へば鑽石の如く——理論以上の何等かを藏し得るかも知れない。
 而してそれが實は讀者に對するひそかなる著者の再びの「自負」でもあるのである。

此の間によつて何人かの人達が國土計畫思想の血にふれ、郷土日本の將來に對して、くもりなく、然し強く張りたる眼を放つ事になり得れば自分の目的はそれに盡きる。

終りに自分は國土計畫の理論的な方面に於て、慶大教授奥井復太郎氏の國土計畫論、現代大都市論、商工省吉田秀夫氏國土計畫論、企劃院調査官美濃口時次郎氏人的資源論、及古屋芳雄醫學博士、小野武夫農學博士、館人口問題研究所調査官等の諸報告を一讀せられん事を望む。

又自分に此の方面の知識を有つ機會を與へて下さつた、東京市政調査會、農村工業協會、學術振興會、土木學會等に深甚の敬意を表し度い。

昭和十六年四月

於阿伎山房

著者

目次

第一部 國土計畫方法論……………三

第一章 國土計畫の史的發展……………三

第一節 沿革……………三

第二節 一應の理論及國土計畫の諸相……………八

第三節 振興主義國土計畫の例……………一七

一、米國……………一七

二、蘇聯……………一七

第四節 再編成主義の國土計畫の例……………二二

一、英國……………二二

二、獨逸……………二二

大都市及工業都市の地方分散……………二二

ジードルング(定住地建設)……………二二

園邑都市……………二二

自動車國道……………二二

第二章 國土計畫の諸相と日本國土計畫の形態及其の主要課題……………三三

第一節 國土計畫の諸相……………三三

滿洲國國土計畫策定要綱……………三三

第三章 日本國土計畫の概貌……………四〇

目次

第一節 主要題目…………… 四

第二節 國土の構造…………… 四

第三節 國土計畫に對する諸試案…………… 三

- 一、既に提案されて居る課題…………… 食糧計畫…………… 人口計畫…………… 資材計畫…………… 防空計畫……………
- 二、方法論…………… 地域計畫…………… 獨逸の工場移設に關する主張…………… 防衛形式…………… 居住地……………
- 運輸の問題…………… 内部の經費への考慮…………… 非自由主義的立地…………… 實行…………… 中央農林協議會
- 策定要綱…………… 施設計畫…………… 交通政策要綱……………

第四章 大都市地方の計畫…………… 六

第一節 大都市是否…………… 六

第二節 大都市の限度…………… 一〇〇

第三節 大都市地方の決定…………… 一〇三

第四節 分散形式…………… 一〇四

第五節 方法論…………… 一〇七

- 一、母都に對して…………… 二、衛星都市に對して…………… 三、推進力としての防空計畫……………

第五章 一般地方計畫…………… 一一五

第一節 地方計畫の題目…………… 一一五

第二節 地方圏構成及其の内部計畫…………… 一二九

- 一、都市の問題…………… 適正規模…………… 都市の規範形態…………… 都市の積分的構成…………… 二、地方圏
- 成…………… 地方圏の大きさ…………… 地方圏内部の文化配分…………… 郷土定住化…………… 條件…………… 吟味……………
- 三、地方小都市振興策…………… 四、農村の處理…………… 農業經營…………… 農村生活計畫…………… 都市と農
- 村の關係…………… 農村と工業…………… 大工場受容の方法…………… 大都市と農業…………… 五、參考・アメリ
- カ地方(州)計畫……………

第六章 結語…………… 一八五

第二部 國土計畫に關する特殊論考…………… 一八六

第一章 國土計畫の最終課題たる生活計畫について…………… 一八六

第一節 生活計畫…………… 一八六

一、生活計畫の要諦……………

第二節 生活自體…………… 一九九

- A、社會中心の要素となるもの…………… B、獨逸の國文化院構成…………… C、K、D、F 團の内容
- …………… D、伊太利 D ポラ ポロ 團…………… E、大衆慰樂内容の參考として、古來の隣保的市民生
- 活をあげれば左の如し…………… F、商業中心と慰樂性の關係…………… G、學生娛樂問題に關する
- 調査…………… H、映畫利用率調査…………… I、上海の娛樂場の種類及類…………… J、企業性娛樂……………

K、文化政策論

第三節 環境論……………三九

イ、保健生活……ロ、隣保生活……ハ、朗生及敬養生活

第四節 人口の社會構成……………三四

構成

第五節 人口構成と生活構成の複合……………三六

第六節 二、三の吟味……………三〇

大都市構造に對して……食糧自給の計算……大都市の生産・消費兩生活の構造……大都

市の地方都市存立に及ぼす影響

第二章 都力測定及都力より見たる日本の國土構造……………三七

第一節 都力の標準とその表出……………三〇

第二節 都力より見たる國土の構造……………二〇

第三章 本邦各都市に於ける工場誘致の概況……………二六

第一節 國土計畫前後……………二五

第二節 活動地帯……………二七

第三節 誘致工場の諸相……………二九

第四節 誘致方法……………三五

第五節 工場誘致の効果とその著しき例……………三〇

第六節 結語……………三三

第四章 國土計畫と商店街……………三〇

第一節 日本國土計畫の形式……………三〇

第二節 獨逸の場合……………三〇

第三節 我國の場合……………三〇

第四節 結び……………三四

第五章 都市計畫による都市振興讀本……………三六

第一節 概論……………三六

一、都市の興亡……二、都力推定……三、國土計畫との關係

第二節 都市振興策種々相……………三三

第三節 工場誘致法……………三六

一、誘致の必要な場合……二、誘致方法……三、都市計畫

目次

第四節 都市美計畫……………三三

- 一、都市整備……………
- 二、都市美装……………
- 三、都市造型……………
- 四、慰樂綠地の配置……………
- 五、都市計畫……………

第五節 盛り場計畫……………三四

- 一、盛り場の基礎計畫……………
- 二、盛り場の整備……………
- 三、店舗及飾窓……………
- 四、盛り場建設に必要な都市計畫……………